

2022年8月30日



DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第5戦鈴鹿、今季初表彰台となる3位を獲得!

SUPER GT 第5戦鈴鹿レポート

2022 SUPER GT 第5戦「FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 450km RACE」(8/27-28)

鈴鹿サーキット(1周5.807km)

入場者数：予選9,000名、決勝16,500名 合計25,500名

8月28日（日）、SUPER GT第5戦「FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 450km RACE」の決勝が行われ、7番グリッドから活潑潑地に勝利を狙っていったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、関口が燃費を稼ぎながらペース良く周回を重ねて前回同様に様々な戦略プランの可能性を高めるクレバーな走り。他車がピットインを始めコース上が空くと関口はプッシュしてオーバーカット戦略を遂行。33周目に満を持してピットインをすると11位で中山が戦列復帰。タイヤをマネージメントして安定したペースで中山は周回を積み重ね、2回目のピットは、49周目SC導入前に中山がピットに滑り込むことに成功。給油作業のみのスプラッシュアンドゴーで素早くピットアウトすると実質2位のポジションで戦列に復帰してみせた。レース展開は先が読めない戦況が続く中でフロント開口部に芝が詰まるトラブルが襲う。後続に迫られながらも、しっかりとクルマとタイヤをマネージメントをした中山は3位でフィニッシュ。待望の今季初表彰台を獲得した。ドライバーポイントは11点を獲得（計27点）、チームポイントは14点を獲得（計40.5点）し、ともにランキング6位に浮上した。

■事前情報

後半戦を占う重要な一戦で真夏のロングディスタンス。シーズン折り返しとなる第5戦の舞台は今季2度目の鈴鹿サーキットとなる。当チームパートナーでもあるFUJIMAKI GROUP様がラウンドパートナーを務め大会名称は「FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 450km RACE」。前戦第4戦富士では、チーム一丸となった冷静かつ大胆に攻めたレース戦略と走りで巻き返し、健闘の6位フィニッシュとなったDENSO KOBELCO SARD GR Supra。8月27日（土）午前に公式練習、午後にノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選で、28日（日）決勝は14時30分スタート。第4戦富士と同じく450km（77周：約3時間）で争われ、給油を伴うピットストップは2回が義務付け。また両日も往年のグループCレースカーによるデモンストレーションランも予定されている。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる32kgを搭載。重量増による鈴鹿でのタイムの落ち込みは、32kgだと約0.7秒と見込まれる。



鈴鹿サーキットの大会公式画像に再び描かれるなど期待も高く、チームの本拠地に近いため応援者も多く訪れる鈴鹿。シリーズ前半戦ではあと一歩で表彰台といった戦いを繰り広げ、450kmで行われたレースでは巧みなレース戦略で後方から追いつけたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。シリーズ後半での形勢逆転を狙うための最大のヤマ場で、今季許される2基目のエンジンを投入する。予選上位グリッドを獲得することが課題で、暑い長丁場ゆえ、天候や運も含めてレース戦略とドライバーも含めたチーム全体の総合力によって勝負の行方が左右される第5戦鈴鹿。非常にタフな戦いを強いられると予想されるが、脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって意気盛んに勢い良く、活潑潑地に勝利を狙っていった。

■公式練習走行

27日（土）9時25分から開始された公式練習走行は、気温30度/路面温度34度の曇天の中で85分間のセッションが開始された。まずは確認のためミディアム系ドライタイヤを装着して関口がアウトイン。その後、タイヤ評価のため8周を走行。7周目に1分49秒155とその時点で13番手タイムをマーク。クルマのセット調整を施した後に再びコースインした関口は、12周目に1分48秒452の12番手タイムをマーク。14周目からは中山が同じタイヤを評価。さらにセットアップを進めていった。21周目からは別のミディアム系タイヤで中山がクルマの感触を確かめ、アンダーステアが強めとのことでインターバルで予選に向けて更に調整を進めることとなった。混走セッションは27周を走行して、関口がマークした1分48秒452のタイムで13番手となった。

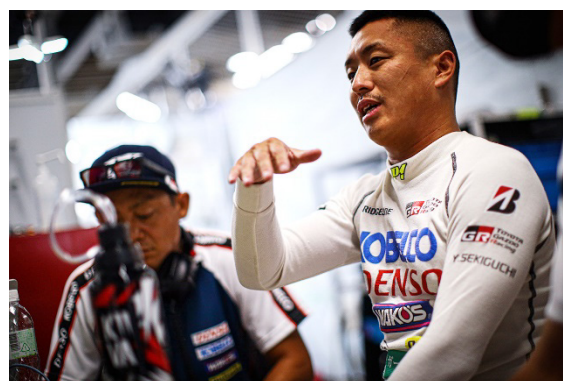


10分間のGT500単独セッションでは、気温33度/路面温度40度に上昇。関口がハード側タイヤでアタックシミュレーションを実施。開始早々に赤旗中断で仕切り直しとなり再度アタックに。4周目1コーナー進入でスピンを喫してしまい、十分なアタックとはならず。公式練習走行ではトータル33周を走行して単独セッション5周目に関口がマークした1分47秒700の14位に留まった。その後、FCYテストを中山が担当して11周を走行。予選に向けて更にセットアップを進めることとなった。

■公式予選

■Q1：関口が集中アタックでQ2進出をもたらす

27日（土）15時53分開始と20分遅れで陽が傾いた遅い時間帯でのQ1となったが、まだ路気温とも高く、気温31度/路面温度38度の曇り。コースオープンしてから30秒ほどで早めのコースインをした関口は、決勝も見据えてハード側タイヤを選択。5周目にアタック1周のみと決めてタイヤの温めに時間をかけていった。予定通り、5周目にアタックを開始してセクター1は28秒台に入ろうかという上位タイムをマークすると、難所のセクター2では17秒台で駆け抜けた。肝となる長い区間のセクター3では39秒前半のタイムを叩き出す流石の走り。セクター4では19秒台にねじ込むセクタートップタイムでフィニッシュラインをイン側から駆け抜ける集中した1周のみのアタックを見せ、カットラインを上回る8位に滑り込み、見事にQ2進出をもたらした。



■Q2：中山が1ポジションアップの7番グリッドを獲得

28日（土）16時31分のQ2開始時点は、気温31度/路面温度38度と変わらずの曇り。関口からインターバルの間にクルマとタイヤのQ1での状況からタイムが出せる走り方のアドバイスを受けた中山は、開始から30秒ほど経ってから、真っ先にコースイン。関口と同じくハード側タイヤを装着して丁寧にウォームアップを開始した後に5周目にアタックを開始。セクター1では若干まだフロントが温まりきっておらずアンダーが強くなってしまっても29秒台前半タイムをマークすると、気合いのセクター2では17秒で関口のセクタータイムを更新。130R手前の最高速を伸ばすためにライン取りが難しいセクター3では走路ギリギリまで攻め込む勢いのある走りでも29秒台前半タイムをマーク。セクター4でも関口のセクタータイムをコンマ1秒上回る19秒台で走り抜け、Q1から1つポジションアップの7番グリッドを獲得した。



■決勝

■ウォームアップ走行

28日（日）13時10分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温30度/路面温度39度の晴れのコンディション。まず関口がミディアム系のタイヤをベディング。続いて2周目からは別のミディアム系タイヤを装着して確認。7周目からは中山に交代して同じく決勝セットのクルマの状況を確認した。ウォームアップ走行はトータル10周を走行し、5周目に関口がマークした1分49秒801で2番手タイムとガソリンを積んで重い状態での調子の良さを見せた。

■決勝レース

第1ステント：関口が燃費良くオーバーカット戦略を遂行

28日（日）14時30分決勝スタート時点は、気温30度/路面温度40度と、午前中は爽やかさもあったが、午後になるとの蒸し暑さも残る晴れ。三重県警によるパレードラップ1周とフォーメーション1周の後に整然としたスタートが切られ、7番グリッドから活潑潑地に勝利を狙っていったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、関口が燃費を稼ぎながらペース良く周回を重ねて前回同様に様々な戦略プランの可能性を高めるクレバーな走り。SC導入でピット1回目を終えているクルマとのギャップが縮まるリスクを注視しながら第1ステントを引っ張り、ピットインのタイミングを見計らいながら周回を重ねていき、他車がピットインを始めコース上が空くと関口はプッシュしてペースアップとオーバーカット戦略を遂行していった。

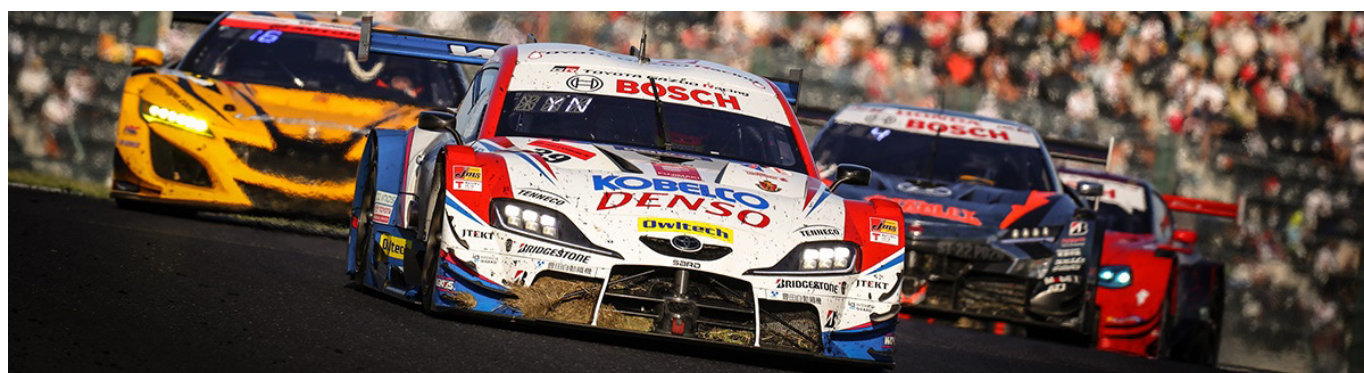


第2ステント：中山が堅実な走行でペースを維持

33周目に満を持して暫定トップでピットインをすると11位で中山が戦列復帰。1回目のピットインを引っ張ったため他車に比べ燃料補給が長めのピットストップとなり、一時的に順位は下がるが逆に2回目は短く済む戦術。次のステントを見据えながらハード側タイヤを装着した中山はマネージメントしながら堅実な走行でペースを維持して周回を積み重ねていった。300クラスの集団や遅いクルマに引っかかりながらもペースを守り、戦略の違う車両がピットを始めコースが空き始めるとペースアップ。いつでも2回目のピットインができる態勢を取りながら安定した周回を重ねていった。

第3ステント：中山が厳しい終盤を走り抜き3位フィニッシュ

49周目に130Rコーナーでアクシデントが発生、すぐさま脇阪監督は中山をピットへ呼び戻す。中山もアクシデント状況を見ていたため、SC導入でピットレーンがクローズされる前に、すぐに反応してピットに滑り込むことに成功。タイヤ無交換と中山の連続走行という戦略を即断し、給油作業のみのスプラッシュアンドゴーで素早くピットアウトすると実質2位のポジションで戦列に復帰してみせた。レース再開後の終盤はタイヤがフレッシュな車両に先行されたが、ペナルティやトラブル車両も出るなどレースは先が読めない展開が続く中で、DENSO KOBELCO SARD GR Supraにもフロント開口部に芝が詰まって水温が上昇を始めるトラブルが襲う。水温表示を見つ、ペースが上げられない状況で後続に迫られながらも、しっかりとエンジンをいたわりながら、タイヤもマネージメントする中山。厳しい状況に陥ったが最後は後続を引き離し2位に迫る勢いを見せ3位でフィニッシュ。待望の今季初表彰台を獲得した。ドライバーポイントは11点を獲得（計27点）、チームポイントは14点を獲得（計40.5点）し、ともにランキング6位に浮上した。





■関口 雄飛



「自分がチームに移籍してから初表彰台ということで、もちろん優勝が良かったですが、まずは表彰台に立てて満足しています。決勝は途中から良いペースで走れてピットを引っ張ることができました。今回もチームの戦略がうまくいてチームに感謝しています。ただここ数戦は予選でのクルマの速さとかフィーリングが前より少し良くないので、開幕戦の時のように純粋にスピードをもう一度見つめ直して、残り3戦はスピードで勝負できるように、みんなで頑張りたいと思います。引き続き応援よろしくお願い申し上げます」

■中山 雄一



「今大会も関口さんの第1スティントで燃費を稼いでくれたおかげで、戦略の幅が広がったことでSCのタイミングをうまく使うことができたのだと思います。そのチャンスを表彰台獲得という結果にしっかりと繋げることができたのは自信になりました。最後の10周はタイヤやエンジンの状況など厳しかったですが、開幕戦の悔しさから絶対に順位を守り切ろうと思って走りました。チームの強みの全てを結果に繋げることができ後半戦に向けて、良いレースができました。ここからは、サードの番だというような速さを見せつけて、1位でスタートして1位でゴールする姿を見せられるように頑張りたいと思います。引き続きご声援のほどよろしくお願い申し上げます」

■監督 脇阪 寿一



「様々な成長やレベルアップを実感してますし、1つの形として表彰台を獲得した事は嬉しいですが、いろんな意味でまだまだ。1つ1つステップを積み重ね理論的に走らせてる筈のクルマが思うようには走ってくれない部分もある難しくレベルが高い今のスーパーGT。そんな中、ドライバー2人や、チームスタッフ、それぞれの個の力で助けられポイントを積み重ねていますが、自分としてはもっともっと高いレベルでチームを纏めたい。我々に足りないのは、経験なのか？知識なのか？しっかり見極め、見つめ直し、必ず成長します。トップオブトップ、今シーズンのタイトル目指して残り3戦。関口雄飛、中山雄一、そしてチーム、チームスタッフが輝くレースにします🍀 鈴鹿戦も沢山の応援、ありがとうございました」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	SW
1	23	MOTUL AUTECH Z	松田 次生/R.クイントレツリ	*1'45.169	30
2	17	Astemo NSX-GT	塚越 広大/松下 信治	*1'45.349	38
3	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原 右京/大湯 都史樹	*1'45.442	1
7	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	*1'45.893	32

天候：曇り、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト、Rはコースレコード

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	12	カルソニック IMPUL Z	平峰 一貴/B.バゲット	2:35'39.339	77
2	17	Astemo NSX-GT	塚越 広大/松下 信治	+6.630	77
3	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	+7.747	77

天候：晴れ、コース：ドライ、5.807km×77Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	12	平峰/バゲット	44.5
2	37	フェネストラズ/宮田	34
3	3	千代/高星	34
6	39	関口/中山	27

Point standings after Rd.5

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	12	TEAM IMPUL	55
2	37	TGR TEAM KeePer TOM'S	47.5
3	17	Astemo REAL RACING	46.5
6	39	TGR TEAM SARD	40.5

Point standings after Rd.5

Partners

TOYOTA

WAKOS

進和

ADVICS

ENKEI

P1

GR TOYOTA GAZOO Racing

Owitech

TOYOTA FINANCIAL SERVICES

New Co., Ltd.

hp

admic

DENSO

TENNECO

豊田通商

小松開発工業

ALTAIR

KOBELCO

KOBELCO

豊田自動織機

FUJIMAKI GROUP

JMS

MECHANICAL WEAR

MECHANICAL WEAR

Racing Development TRD

JTEKT

INOS

TONE

MAKE WINNER

MAKE WINNER

BRIDGESTONE

豊田合成

HAYASHI TELETYPE

MIZUNO

UNIMAT LIFE

UNIMAT LIFE

情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SARD YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtooRFaF5FVA>
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp